

日刊 勤労千葉

85. 8. 30
No. 2026

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二二七二〇七

国鉄千葉動力車労働組合

政府・自民党は八月二二日、北陸、東北（盛岡以北）新幹線着工問題について協議し、年内にも新幹線周辺環境整備事業を開始することを決定し本格着工へむけて大きく動き出した。二兆円の長期債務をかかえ、「国鉄再建」を叫びながら、なにひとつ財源、採算の見通しがな

総額二〇兆円を超す整備新幹線建設

整備新幹線とは、北海道（札幌―青森）、東北（盛岡―青森）、北陸（高崎―富山―大阪）、九州（博多―長崎、博多―鹿児島）の五線である。総建設路線は一四四〇キロ、建設費は二〇兆円を超すとされ、当面着工が予定される東北、北陸

両線だけでもその半額が見込まれている。整備新幹線計画は、田中角栄の列島改造計画の一環として、日本中に新幹線網をはりめぐらそうとの名のもと、一九七三年に決定された。

しかし、第一次石油危機などによって計画は「凍結」となり、七八年に再び実施計画が決定したものの八二年七月の臨調答申は「当面見合わせる」とし、閣議でも同様の決定が行われた。ところが、自民党は昨年暮れの「六〇年度予算」で運輸省の概算要求にもなかった整備新幹線着工予算を要求し、工事費、調査費を含め一二八億円を強引に大蔵省に認めさせるとともに、「並行在来線の廃止」「建設費の地元一割負担」「六〇年八月をメドに着工」について、政府の合意をとりつけた。

財源・採算性もなく「とにかくゴー」そして、七月二六日、監理委答申が整備新幹線について、①予想旅客需要、②在来線への影響、③財源問題、④技術開発によるコスト減、などを考慮に入れ、「慎重に判断する」としたことをもって、「当面凍結」の閣議決定をくつがえし、本格着工を目論んでいる。

政府・自民党は八月二二日、北陸、東北新幹線の工事着工問題について協議し、本格着工については「六二年四月までに工事認可についての結論を出す」とし、この間、「北陸、東北新幹線

の駅舎、駅前広場など周辺環境整備事業を行い、六一年度予算で両新幹線の工事費、各一〇〇億円以上、九州新幹線についても五〇億円の確保」を決定した。これにより、整備新幹線は本格着工にむけ大きく踏み出すこととなった。

「分割・民営化」＝「国鉄再建」論のペテンと破産は明らかだ

整備新幹線計画こそ「国鉄再建」がまったくのペテンであることを証明している。なぜならば、第一に、一九八七年四月で二五兆円に達する長期債務をかかえ、借金の解消に四苦八苦し、あろうことか国民に十七兆円を押しつけておきながら、さらに二〇兆円にものぼる膨大な建設費をつけ加えようとしていることである。

第二に、東北、上越新幹線でさえ、赤字になるのは「二〇年先」と見込み、需要予測が東北、上越新幹線を下回る北陸新幹線をはじめ、すべての整備新幹線の採算がとれないことが明白であるにもかかわらず、建設を強行しようとしていることである。

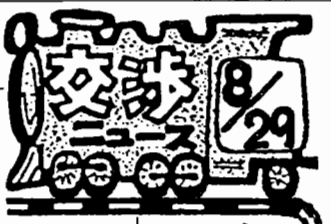
しかも、政府・自民党は着工の条件として、①並行在来線（東北、北陸本線）の廃止、②建設費の地元一割負担を盛りこんでいるのだ。すでに明らかのように、整備新幹線建設の狙いは、国鉄「分割・民営化」前に自民党、財界が最後の国鉄を食いあさり、すべての犠牲を国民にシワよせしようとする理不尽きわまりないものである。われわれは、このような百パーセント反人民的な「整備新幹線」計画および監理委「分割・民営化」方針を断じて許さず、実力で必ず粉碎していかねばならない。

整備新幹線計画着工へ

国鉄労働者と人民に犠牲をおしつけて、甘い汁すう自民党・国鉄監理委



国鉄「分割・民営化」阻止 / 三塚二期着工粉碎 / 大破産必至の



85年度新賃金配分交渉

現在、勤労千葉は精力的に「八五年度新賃金配分交渉」を継続中であるが八月二九日、第三回交渉を行なった。席上、当局は次の通り回答してきた。

賃金改訂について（一九八五・八・二九）

1. 扶養手当
支給額を次のとおり改める。
（1）配偶者及び十八歳未満の子（いずれか一方のみの場合を含む）の扶養親族を有する者。
月額 九〇〇〇円、（現行 七五〇〇円）
（2）十八歳未満の孫、六〇歳以上の父母及び祖父母、

2. 都市手当

十八歳未満の弟妹並びに重度心身障害者（いずれか一の場合を含む）の扶養親族を有する者。
月額 三三〇〇円、（現行 三〇〇〇円）
基本給表の改訂に伴い、定額表を改訂する。
（改訂率に合せたスライド）

※ 基本給表等については、引き続き協議することとした。